

協議会ニュース

No. **157**

2017. 12



Contents

- | | | |
|----|--|-------------|
| 02 | 自然環境サポーター養成講座②報告
身近な生き物「カエル」から見る生物多様性 | 浅井 聡司 |
| 03 | 2017 年度 県協議会交流の日報告
地元食材を堪能し、人の輪が広がりました | 東三河支部 星野 芳彦 |
| 04 | ビーチコーミングで海の漂着物を楽しもう | 知多支部 中井三従美 |
| 05 | 岩屋緑地観察会 | 東三河支部 瀧崎 吉伸 |
| 06 | トラップを使った昆虫等の観察 | 尾張支部 齋竹 善行 |
| 07 | 〔連載〕 竹クラフト第三回「ミニ門松」 | 名古屋支部 高木 和彦 |
| 08 | 表紙写真の紹介/編集からのお知らせ/編集後記 | |

今号の表紙

「クリスマスリースの材料探し」石原則義（名古屋支部）

身近な生き物「カエル」から見る生物多様性

講師：愛知教育大学生物学教室 島田知彦氏

レポーター：浅井聡司

講師紹介 島田知彦氏

- ・愛知教育大学生物学教室
- ・動物分類学・自然史専攻
- ・大学時代に野生生物研究会に所属
- ・ボルネオハヤセガエルで研究論文
- ・京都学園大学で田んぼのカエルの研究調査



テーマ①

日本で一番新しいミカワサンショウウオ

愛知県の作手、下山、額田地区で発見された山地止水性のサンショウウオ。カスミサンショウウオとの違いは、斑点模様があり、小型で手足が短いこと。卵塊が渦巻き状でコイルの様に巻いており、日本海型のクロサンショウウオに近いとされている。

テーマ② 姿を消しつつあるヒキガエル

5～10年前から、都市部を中心に急速に姿を消しつつある。産卵場所の消失や生息場所の消滅が原因らしい。一斉産卵・一斉変態し陸上に上がるが、変態までに90%は死亡する。そのうち生殖可能な3歳になるまでに生き残った個体の80%は死亡する。生理的寿命は、野外では10年、飼育環境では40年生きると言われる。ヒキガエルは耳下腺から毒を分泌する。ヤマカガシはヒキガエルを食べて毒を体に蓄え、アライグマはヒキガエルを洗って食べる。ツボカビやラナウィルスも関係しているのか。

テーマ③ 田んぼのカエルの勢力争い

土地改良事業により耕地整理されると、ナゴヤダルマガエルが激減し、ヌマガエルが増えている。

アマガエルやトノサマガエルは水田の中干し(稲の生長段階で一度水を抜き、雑草の防止と稲の成長を抑える)前に、一斉に変態して陸生化するが、ヌマガエルは中干し前に変態して陸生化した後で再び産卵するため、繁殖力が旺盛で、現在の稲作のサイクルにうまく適応している。アマガエルは最も乾燥に強い。

一方、ダルマガエルは、湛水された田んぼに適応しており、水を落とした乾田にうまく対応し切れていないようだ。

トノサマガエルとダルマガエルは減少し、アマガエルとヌマガエルは増加している。

テーマ④ ネバタゴガエルはキャンと啼く

愛知県の三河地区の山地帯にはネバタゴガエルが多く生育しており、尾張丘陵地域にはタゴガエルが住んでいる。形態や生態がよく似ているこの2種は、鳴き声で区別できる。

.....

講演の後、質疑応答も盛んに行なわれました。中でも興味深かったのは、島田先生が持参されたヒキガエルが、突然脱皮をはじめ、脱皮した皮膚をうまく食べているところに遭遇。参加者はカメラ片手に大興奮していました。

“地元食材を堪能し、人の輪が広がりました”



≫ 2017 年度 県協議会交流の日報告

東三河支部 星野 芳彦



2017 年 10 月 29 日(日)は、「県協議会交流の日」でした。今年度は東三河支部が担当し、当支部 22 名をはじめ、名古屋支部 4 名、尾張支部 3 名、知多支部 11 名の計 40 名が参加しました。台風 22 号の接近で、午前中に豊橋市に暴風警報が発令されるという異常事態にみまわれました。午前の観察会を早めに切り上げ、大幅な日程変更で少し雨には遭いましたが、大きな混乱もなく無事、美味しく「完食」できました。

当支部では、例年「芋煮会」と称して野外で「芋煮鍋」を囲み、会員相互の親睦を深めています。伝統的にしょう油仕立ての豚肉・里芋・大根・葱が中心の純和風でしたが、今回は担当者の独断で敢えて冒険してみました。

テーマは『地産地消』です。自然観察会はもちろんその地域に根ざしていますが、日常生活の中では「地域」のことを忘れてしまいがちです。とりわけ食生活では、日本国内はもちろん世界中の食材が容易に手に入ります。まさに GLOBAL を地でいく現状があります。

そこで、地域の食材を多く取り入れた豊橋めしで、地産地消やジビエなどの食のあり方や私たちの生活と自然との関わり方なども考えようという企画に至ったわけです。

こんなお品書きでした。

- 1 石巻(豊橋市石巻町)産猪肉のカレーナン添え
- 2 渥美豚のカレーうどん
- 3 石巻産鹿肉塩コショウ味とみそ味のソテー
- 4 豊橋産ちくわと渥美たくわんの薫製

5 豊橋特産の次郎柿

6 中原屋(豊橋市二川町) 栗蒸しようかん



★猪カレーは、自家製のナンと相性抜群！なお、会場は岩屋公園内のディキャンプ場でした。

☆鹿肉は、前日からみそとみりんのたれに漬け込み、ソテーしました。



鹿と猪は昨年豊橋市石巻町内で地元のハンターが仕留めました。鹿と猪による農作物への被害はかなりのものです。

有害鳥獣として駆除されてもジビエ肉が一般の市場に上らないため、販売拡大に結びつきません。何か打開策が見つからないものでしょうか。

そんなことも考えさせられた日でした。参加者のみなさん、どうもありがとうございました&ごちそうさまでした。

どうまかったのん、生憎の天気だったけどようおいでたノン。ありがとさま。



(東三河支部一同)

ビーチコーミングで海の漂着物を楽しもう

知多支部 中井 三従美

日時 9月24日(日)9時30分～11時30分

天気 晴れ

場所 常滑市蒲池海岸

参加者 大人4名 指導員9名

爽やかな暑い日。大人の参加者だけでした。漂着物を対象とした観察会はこの地域では初めてでした。永田孝指導員の元で研修会のように基本から学ぶことになりました。

漂着物を以下の様に分類し観察しました。

①海にいるもの(生き物)②海で使用しているもの(漁具など)③外から来て遊んで捨てられたもの④川から流れ出たもの⑤海系(黒潮)南のほうから運ばれてきたもの。分類後に何時から海に漂って漂着したものなのか(時間のながれ)などを観察、推察しました。

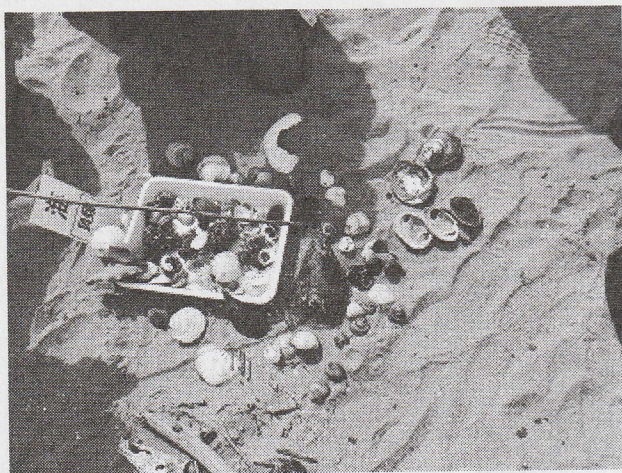
皆が1時間程波打際で集めた漂着物は次のようなものでした。



▲漂着物の分類

① 海にいるもの(貝殻が多い):タイラギ、マテガイ、バカガイ、ウチムラサキ、チョウセンハマグリ、カガミガイ、トリガイ、アサリ、アカニシ、ツメタガイ、ク

ボガイ、ホンミル、サルボウ、ナミガシワ、シマメノフネガイ、ハイガイ、シソガイの仲間、サンショウウニ、イシガニ、ミルアナアオサ、アマモ、エイの尻尾、魚の頭骨(二尾分;ボラと思われるもの1、不明1)



▲分類した貝殻

- ② 海で使用しているもの:リング(海苔養殖の貝付着防止)、ロープ(太さいろいろ)、竹、ルアー、釣り用エサ入れ、その他(シーグラス)
- ③ 外から来て遊んで捨てられたもの(人工物が多い):バケツ、ライター、ドリンクの空き瓶、ペットボトル。
- ④ 川から流れ出たもの(木の実が多い);クルミ、トチ、ヒシ、ギンナン、ヤシ(近海で捨てられたもの)、ヨシ、流木
水辺の植物の種は水に浮いて生育地を広げるものが多い。
- ⑤ 海系(黒潮)南の方から運ばれてきたもの:モモタマナ(この地で初)

私たちも自然に帰らないものは持ち帰りましょう。

岩屋緑地観察会

東三河支部 瀧崎 吉伸

10月29日、時ならぬ台風が接近し、今にも崩れそうな空のもと、豊橋市大岩町の岩屋緑地で「協議会交流の日・東三河自然観察会地域観察会」が催されました。とんでもない天気予報の中、参加者はいるのだろうかかと心配をしましたが、大谷会長をはじめ、各支部から多くのご参加をいただきました。会員以外の一般参加者も5名来ていただきました。

当初は、雑木林の中を歩くつもりでしたが、前日からの雨で足下が極めて悪かったため、コースを変更しました。岩屋緑地には旧東海道が通っており、その道沿いに観察をしながら進むことにしました。

予定していた雑木林にはマテバシイ、アベマキ、コナラ、アラカシなどのどんぐりの木が多く、ホソミコナラ等の変わりだねもあり、それらを中心に観察会を進めたかったのですが、コース変更により当日行き当たりばったりのプログラムとなりました。

道沿いには救荒植物としての植栽と思われるスダジイの巨木があり、自生するツブラジイとの間に雑種を形成しています。スダジイは愛知県内では渥美半島にだけ自生していますが、岩屋緑地は渥美半島の付け根に近いところに位置しているため、ひょっとすると自生のスダジイとツブラジイの交雑が繰り返されてきたのかもしれません。観察会では、この山の多くの木が交雑個体であることを紹介しました。

道路沿いに生育するナガボナツハゼは、おそらく世界でも最も絶滅の危機にさらされている樹木です。知多支部の方々は、前日に訪れた浜北の森林公園でも見てきたとのことでした。

チャートの岩山にできた岩窟には行基が彫ったという千手観音が祭られています。岩窟がうがたれる元となったであろう断層を見ながら、地学が専門の東三河支部の松岡さんからチャートの岩窟について説明していただきました。断層で脆くなったチャートを、縄文期などに海進で迫ってきた海の波が崩し、岩窟ができあがったのではないかという仮説も紹介していただきました。この岩には、東三河では珍しいシモツケヌリトラノオがたくさん付いており、最近の温暖化で増えてきたイヌケホシダと併せて紹介しました。

岩窟の前に建てられたお堂の下にはアリジゴクが巣を作っており、参加者の皆さんに探してもらいました。また、お堂の脇に植えられた侵略性の高い外来種であるヤナギバルイラソウについても説明しました。種子が水に運ばれて広がることや、河川敷に侵入すると大変なことになると、我が国の水草研究の第一人者、兵庫県立大学の角野先生が警告を発していることも紹介しました。

午前10時過ぎに豊橋市に暴風警報が発令され、観察会は途中で切り上げることとなってしまいました。その後は、星野副会長が中心になって準備されたご当地グルメを皆さんでいただいて、早めの散会となりました。

大変な天候の中、ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

協議会交流の日の報告については、
p.3にも掲載されています！
ぜひご覧ください。

研修会報告

トラップを使った昆虫等の観察

尾張支部 齋竹善行

日時 平成 29 年 9 月 30 日 (土)

9:30~12:00

場所 定光寺

講師 松尾初氏 (尾張支部)

集合場所の定光寺第三駐車場から、講師の松尾さんがトラップを仕掛けておいた林の中に移動し、現物を見ながら話を聞きました。トラップは3種類で、いずれも松尾さんがホームセンターなどで材料を購入し、自作したものです。

■リタートラップ

正方形に切った細かな網の周囲をテープで補強したものです。林床に設置しておき、落ちてくる葉、枝、花、実などを集めるものですが、動物の糞や死骸なども集めることができます。定期的に回収し、仕分けして重量を計って記録します。

落ち葉の仕分けを現地で体験しました。

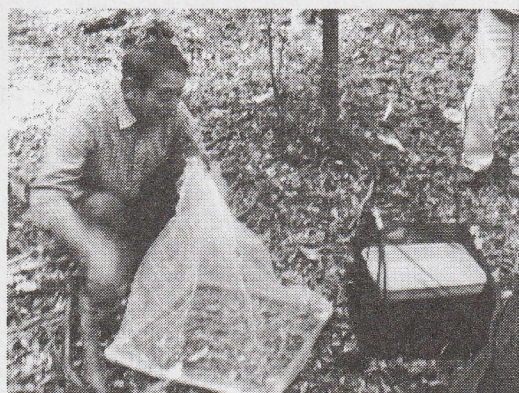


▲リタートラップ

■羽化トラップ

土壌中あるいは水中で羽化して飛び出してくる昆虫を捕まえる装置です。方形枠の上にピラミッド型に網を張るものが多い

ようですが、製作が難しいので、形状を工夫したそうです。



▲羽化トラップ

■フライト・インターセプト・トラップ

飛んでいる昆虫が衝突して落ちたところを捕獲する装置です。衝突板には薄い透明なアクリル板が使われています。実際に小さなカメムシの仲間が落ちていました。



▲フライト・インターセプト・トラップ

いずれのトラップも製作には少し手間がかかりますが、事前に設置しておけば自然観察会でも利用できます。コースを回り花や昆虫を見る観察会とは一味違うものになるかと思います。

竹クラフト 第三回

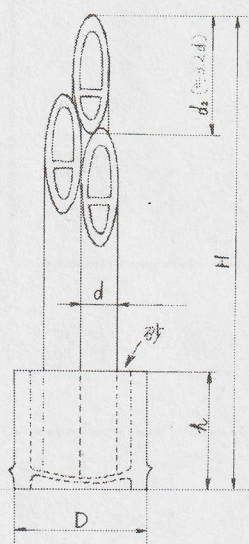
ミニ門松

名古屋支部 高木和彦

第三回は旬の話題、ミニ門松です。竹を結構沢山使うのでその有効利用になります。

モウソウチクを鉢に使い、マダケを3本立てる形のものを紹介します。門松は地域によって色々な形がありますから、この形でなければならないという事は有りません。私が作るミニ門松の寸法を表にしました。

好みに合わせて変更して下さい。



鉢		3本組の竹	全高
直径	高さ	直径	3.60
D	h	d	H
110	99	28	396
120	108	30	432
130	117	33	468
140	126	35	504
150	135	38	540
160	144	40	576
170	153	43	612

▲各部の寸法 (mm)

作ってから1か月以内に片付けてしまうので、色の良い新しい竹1年生か2年生を使います。3本切り出す真竹はなるべく真っ直ぐな物を選びます。曲がっていると3本纏めて縛るのが難しくなります。

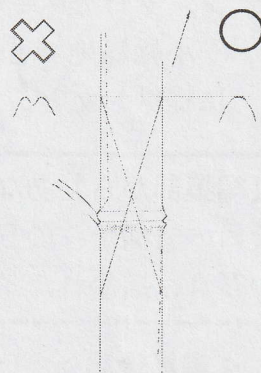
まず鉢の部分です。稈に対して直角に切る事がポイントです。(第一回参照) 若し節の撓みが大きく穴が開いてしまったら、厚紙か何かで塞げば使えます。

3本組の竹は出来るだけ角度を揃えた方が綺麗に見えます。最初に切った物を定規代わりに使うと揃えやすいと思います。3本の内一本だけ鉢の底に当てていれば、他の2本は鉢の中に収まれば宙吊りでも問題ありません。切る方向は必ず下から先端(尖った方)に切ります。どうしても皮がささ

くれて筋が入るので見えない後ろに回す為です。枝が有る場合は枝を切り取るように切ると枝の上の窪みの影響が出ないように出来ます。

節の所で切るのかどうかは、やはり好みです。節の所で切ると顔の様に見えます。下側が口と見立てて、笑いと言っています。下を大きくすれば大笑い、小さくすれば、おしとやかな? 笑いとなります。

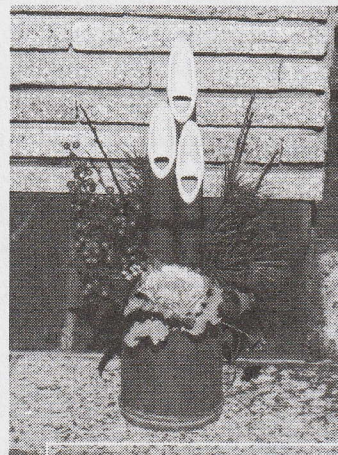
3本を縛る時、節で真っ直ぐに縛れない事があります。その場合は、当たる所をヤスリやカンナで削ります。縛ってしまえば見えないので結構荒っぽく削れます。上下2ヶ所を縛ります。見えるのは



▲先端の切る方向

上だけ、しかも飾りによっては見えなくなります。松竹梅は欠かせませんが、それ以外は好みです。(写真は葉牡丹、南天、千両を加えています) 色々工夫して、世の中に唯ひとつのオリジナルを作製してみてください。

次回は竹を筒の状態で使用し



▲ミニ門松 完成例

ます。1月中にφ100以上の竹を確保して置いて頂きますようお願いいたします。

PICK UP!



小幡緑地自然観察会（名古屋支部） クリスマスリースの材料探し

今号の表紙の写真は、名古屋支部の石原さんからの「クリスマスリースの材料探し」です。昨年12月10日に小幡緑地自然観察会で開催し、52名もの方が参加されたそうです。

1時間くらいかけて小幡緑地の自然観察をした後、ブルーシートの上でリースを作ります。クズやミツバアケビ、アオツヅラフジ、スイカズラなどのつるをベースとし、松ぼっくりやアメリカフウの実などで飾り付けをしていきます。クリスマスカラーの赤色にはツルウメモドキ、カナメモチ、ピラカンサ、サネカズラ、ナンテン、クロガネモチを、緑色には常緑のコニファーなどを用意したそうです。

小幡緑地でとれたシャシャンボの実をジャムにし、クラッカーに乗せて、参加者に提供したところ、クリスマスリースづくり同様に好評だったとのことでした。

【編集部から】あなたが撮影した写真や描いたイラストを大募集！

会員の皆様からの写真やイラストを表紙に掲載します。皆様が撮影した観察会や生きものの写真、描かれたイラストの電子データとタイトルをメールでお送りください。

＜編集後記＞

季節外れの台風が過ぎ去った後で一気に冷え込んだせいか、体調を崩す人が多いようです。かくいう私も風邪を引いて寝込んでしまい、協議会交流の日に参加することができませんでした。今号に掲載された星野さんの報告を読み、なんとも美味しそうな料理の数々に、当日行けなかったことが残念でなりません。環境や地域の問題を考えるだけでなく、楽しく美味しく行動できるこうした取り組みは、新たな客層を呼び込み、活動を継続させる力になると思います。すばらしいです。（久米）

編集スタッフ

岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章

協議会ニュース編集部

久米未祐 TEL:090-3302-1621 E-mail:ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail: norimameobata@yahoo.co.jp Web Page: <http://naichi.net>

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）